農林水産大臣賞

大変な中で分かったこと

石川県能登町立宇出津小学校四年
重國　愛奈

五月に、私は生まれてはじめて田うえ体験をしました。おかしいな。イメージトレーニングはできていたのに、足がはまって思うように歩けない。自分でもわらってしまうくらい動けなくなって、一しょにいた友達みんなで何回もしりもちをついて、終わった時にはクネクネにうえられた田んぼと、おしりまでどろんこの集団ができあがりました。

小さいころから私は、おじいちゃんが田んぼにかようのを見てきました。朝早くから、夕方くらくなるまで毎日のようにお世話をしに出かけて行くのを見ていて、買ったほうが楽なのに。と思っていました。けれど、なぜかおじいちゃんの作るお米は、私にはやさしい味に思えて大好きで、たくさん遊んでほしいのに、田んぼに行くおじいちゃんに、行かないでほしいとは言えませんでした。

おじいちゃんがなくなって、スーパーで買ってきたお米を食べるようになり、おいしいのに、どこかさみしい気持ちでいました。

一月に能登半島地しんがおきました。その日は、おばあちゃんのたん生日でもあったので、おいわいをして家を出てすぐの事でした。立っていられないほどのゆれで、お父さんにしがみつくのがやっとの中で、まわりの家やそうこがくずれていくのが見えました。そして津波が来て。それから先は、こわかった事と、これからどうなるのかのふ安ばかりでよくおぼえていないけれど、落ち着いて見た時には、もうおじいちゃん、おばあちゃんの家も、まわりの家も大変なひがいにあっていて、あれだけ広がっていた田んぼも、津波や、家がなくなってしまった事でお世話ができない人達ばかりになって、見ているだけでなみだが出るような、とても悲しいけしきになってしまいました。

私の家族は、みんなぶじだったけれど、つらい思いをされている人もたくさんいます。

ひなん所でごはんをもらって食べました。お湯を入れてしばらく待つと食べられるごはんを、二人で一ふくろ分けて食べました。ふだんなら、ぜんぜんおいしくないって言うのかもしれませんが、その時はとってもおいしく感じました。生きていてくれてありがとうと言い合って泣いている人達もたくさん見ました。えんりょしてごはんを食べないでいるおばあちゃんに、おにぎりをわたした時の、ポロポロと流したなみだはわすれないし、こんな事は、もう二度とおきてほしくない。お米の大切さも、あらためて感じました。

「いただきます。」の意味を、こんなにしっかり考えた事もなかった私は、田うえ体験のぼ集に、すぐにとびつきました。イメージ通りにいかないむずかしさと、それでも終わった時の気持ちのよさは、自分だけじゃなくて喜んでくれる人の顔を思いうかべられたからだと思います。おじいちゃんが毎日田んぼに行っていた気持ちが少し分かりました。